

# ボランティア情報

2020年

10月

<発行>

東広島市社会福祉協議会 企画福祉課

TEL : (082) 422-4075

FAX : (082) 423-8525

ホームページ

<http://higashihiroshimashi-syakyo.jp/>

社協スタッフブログ

<http://h-syakyo.sblo.jp/>

## 『芋ほり』 参加者・ボランティア募集 (きんさい家サロン)

「きんさい家」は、障がいのある子どもさんとそのご家族、地域のボランティアさん、学生ボランティアさんなど、誰でも自由に気軽に参加・交流ができるサロンです。畑でみんなで芋掘りをして、秋の休日を楽しみましょう。畑の場所は、西条町下三永にある「星ふる里 みんなの畑」です。

日 時：10月24日(土) ※時間がまだ決定していません(現時点での目安は、11時～15時)。

申込み時にメールアドレスをお伺いし、決定次第ご連絡します。

場 所：「現地集合」か「マイクロバス移動」か、どちらかお選びください。

●現地集合 星ふる里 みんなの畑 (東広島市西条町下三永3609-2)

●東広島市総合福祉センター 集合 → マイクロバスで現地へ行きます。

持参物：参加費一人100円、お弁当、飲み物、スコップ、軍手、長靴、タオル、帽子、カッパ(少雨時)、着替え ※汚れても良い服装でお越し下さい



雨天時：小雨決行。当日朝8時時点で警報が出たら中止。

申込み：必ず申込みが必要です。10月19日(月)締切(人数が多い場合は、調整させていただきます)

○詳細が決まり次第、東広島市社会福祉協議会ホームページでもお知らせします。

【新型コロナウイルス対策】 ・体調不良の方はご遠慮ください。 ・マスクの着用をお願いします。

・会場では、手指消毒や室内換気等を行います。ご協力をお願いします。

【申し込み先】東広島市社会福祉協議会 企画福祉課 あったか応援センター

TEL(082)422-4075 FAX(082)423-8525 メール:kikaku@soyokazenet.jp

## 10月のボランティア募集の中止 (特別養護老人ホーム 長寿苑)

新型コロナウイルスが収束しない為、ボランティア募集を中止にさせていただきます。

皆様のご理解・ご協力をお願い致します。

【問い合わせ先】社会福祉法人しらゆり会 特別養護老人ホーム長寿苑 担当：佐々木

〒739-0033 東広島市西条町馬木 1566 番地 TEL(082)425-2000 FAX(082)425-2001



## 新型コロナウイルス感染症対策ボランティア活動応援補助金 申請団体募集

(東広島市教育委員会 生涯学習課)

新型コロナウイルス感染症の不安が広がる中、感染の拡大を防止する活動や、市民生活への影響を軽減する活動を支援するため、「ボランティア活動応援補助金」の交付を希望するグループ、団体を募集します。詳細は東広島市ホームページをご覧ください。

【問い合わせ先】東広島市教育委員会 生涯学習課

〒739-8601 東広島市西条栄町 8-29 TEL(082)420-0979

FAX(082)422-1610 電子メール：[hgh200979@city.higashihiroshima.lg.jp](mailto:hgh200979@city.higashihiroshima.lg.jp)

●この補助金を活用したボランティア活動の一つを、裏面にてご紹介しています



こんなボランティア活動  
をしています！

## 医療用防護服を手作りし、病院に寄贈（リフォーム同好会）

コロナ禍で、マスク・消毒液などが手に入らず困った時期がありました。医療現場でも、5月頃に防護服が足りず、カッパでも良いから集めている時期があったそうです。そんな時に、中国新聞の記事で「防護服作り手伝って」という記事が載りました。「アトリエ ミヨ」を営む田中美代さんが、防護服の型紙や縫い方をホームページで公開し、縫い手を募っていました。これをたまたま見た榎正子さんは、「裁縫の技術が活かせる。私たちにも出来ることがあった」と思い、榎さんが所属する「リフォーム同好会」代表の田淵さんと児玉さんに声をかけました。田淵さんは「防護服なんて縫ったことない。できるの？」と思われたそうですが、「とりあえず縫ってみようか」と初めて防護服作りをされました。生地は、エステサロン用の防水加工された不織布を使用します。3名で100枚を縫い、広島市の病院へ寄贈されました。

その後、東広島市の「新型コロナウイルス感染拡大防止等に資するボランティア活動応援補助金」制度を活用して防護服づくりをすることを「リフォーム同好会」の皆さんに相談しました。自分たちの技術が活かせるならと、皆さん、気持ちよく賛成され、それぞれのできる範囲で取り組みを始めました。

作り始めは家族から「サイズが合わなかったらいけんよね」と言われましたが、肩や腕に隙間ができないよう設計されていて、長い紐で結ぶようにしてあるため様々な体形の人でも着られます。すると家族からは「これなら良いわ。使い捨てするのが勿体ないわ」と反応があったそうです。



写真後列左から、リフォーム同好会の榎山さん、榎さん。前列左から、東條さん、田淵さん、藤土さん、吉村さん（最高齢92歳！縫うスピードがとても速い！）。／作った防護服（写真中央とテーブル上）。

あと、写ってはいませんが、児玉さんと坂本さん、講師の石原先生がおられます。


メンバー8名で縫い、200枚を東広島医療センターへ寄贈しました（令和2年8月6日）。東広島医療センターの方はとても喜ばれたそうです。現在さらに追加で100枚を製作しています。

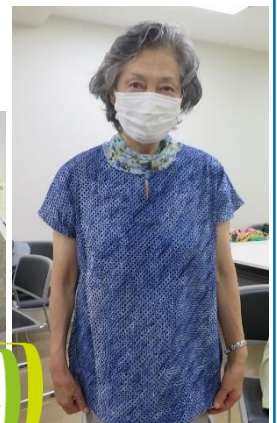
リフォーム同好会代表の田淵さんは「量ではなく、**みんなで200枚を作ったということが大切。一人何枚作るという割り当てはしなかった**」と話されました。活動のきっかけとなった榎さんも「一人じゃない。皆がやってくれています」と話され、無理のない範囲で皆さんと一緒に作ったという思いが伝わってきました。

リフォーム同好会さんの普段の活動は、着物のリフォームなどをする趣味の集まりだそうです。今回は医療用防護服を作り、病院へ寄贈するというボランティア活動をしました。普段は特にボランティアをしているわけではないそうです。趣味の活動を活かしてボランティアになった、趣味の仲間と一緒にボランティアをしたということが素晴らしいと思いました。

リフォーム同好会の榎山さんは「縫うまでは不安でした。一着縫ったら安心した。充実感があります。役に立ってほしい。防護服がいなくなったら喜びです」と話されていました。



着ていらっしゃる服は、ご自分でリフォームされた物です



（東広島市社会福祉協議会 あったか応援センター）